

にしおの

難病を乗り越えて
陸上選手・糟谷悟

おっ!



東京マラソンで力走する糟谷さん

冬の風物詩、箱根駅伝。数多くのランナーが箱根駅伝をステップに、全国の舞台で活躍しています。難病を乗り越え、現在も走り続ける西尾市出身の糟谷悟さんも、その一人です。

糟谷さんが陸上と出会ったのは中学1年生の時。バスケットボール部に入部しましたが、体育祭の長距離走で1年生ながら全校2位でゴール。それを見た陸上部の先生から、駅伝の助っ人を頼まれたことがきっかけです。走ることが特技に変わり、気が付けば部活も陸上部に。1学年下で文武両道の後輩が良きライバルとなり、「勉強ではかなわないけれど、陸上では絶対に負けない」と努力を重ねました。

高校生になり、憧れの先輩が大学で活躍している姿を見て、大学駅伝、特に箱根駅伝を意識するようになります。その先輩の影響もあり、駅伝の強豪駒澤大学へ進学。1年生から4年連続で箱根駅伝に出場し、見事3度の総合優勝、2度の区間賞に輝きます。「箱根駅伝

は大きな祭りのよう。ゴール前は観客の声援で鳥肌が立ち、地面が揺れて感じた」と糟谷さん。

大学卒業後、実業団駅伝やマラソンでキャリアを積む傍ら、吉良町（合併後は西尾市）の代表として愛知県市町村対抗駅伝競走大会に6度出場。「生まれ育ったまちへの思いが強く、走ることで恩返ししたかった」チームの好成績に貢献するとともに、タスキをつないだ子どもたちに走ることの楽しさを伝えました。

平成25年、29歳の時に体の異変を感じます。「走っている感覚がおかしくなった。熱はないのに風邪を引いているようだった」すぐに医師に相談するものの、異常なし。しかし、異変を確信していたため精密検査を依頼すると、悪性リンパ腫であると判明。ショックを受けながら、やはり自分の感覚は間違っていないかという思いも。病気を覚悟していた分、気持ちも早く切り替えられたそうです。

8時間に及ぶ手術と、約10か月の闘病生活を経て、医師から難し



profile

糟谷悟

トヨタ紡織株式会社陸上部所属。昭和58年7月生まれの34歳。身長179cm、体重58kg。中学校時代のニックネームは「さとびー」。西尾市といえば、好物の抹茶。お気に入りの芸能人の名言「1クールのレギュラーより、1回の伝説」が好きな言葉

いと言われていた競技への復帰を果たします。闘病中は抗がん剤治療の副作用で苦しみますが、復帰への強い思いで乗り越えました。「日の丸を付けて走ることを目標に頑張っていたのに、何もできずにじっとしていることが一番つらかった。でも、乗り越えた分、さらに精神的に強くなれた」と当時を振り返り語ってくれました。

現在も日々厳しいトレーニングを積む糟谷さん。「目標は日本代表として走ること。病前と変わらない。今は2月の東京マラソンに向け調整中」と力強く話してくれました。また、「一緒に頑張れるライバル、目標とする先輩を見つけてほしい。どうすれば速く走れるかを自分で考え、失敗を失敗と思わずどんどん挑戦してほしい」と陸上選手を目指す子どもたちに熱いメッセージをいただきました。糟谷さんの次なる挑戦にエールを送るとともに、糟谷さんに続くランナーの誕生を期待して、佳境を迎える駅伝シーズンを楽しみましたと思います。（石川泰弘）